

長崎の



お菓子

おいしいお菓子と

「百菓之図(P9)」にも描かれている、ポルトガル由来のお菓子「カスドース」。



お茶

お茶の物語

長崎よりも先に砂糖が伝わったまち、平戸



平戸は長崎県の北西に位置し、約五分の一の面積が西海国立公園に指定されている美しい海と大自然が広がる島。島についても現在は平戸大橋でつながっており、車で気軽に行くことができる。

平戸にポルトガル船が初めて入港したのは一五五〇年のこと。それ以来、一五五三年以降は毎年一隻から二隻のポルトガル船が来航し、その後はスペインやオランダ、イギリスの船も来航。平戸は「フィランド」と呼ばれる国際都市として発展し、賑わいを見せた。小さな島に伝えられたのは、それまで見たこともなかった西洋の食べ物や文化。その一つが「砂糖」であり、南蛮菓子であった。

平戸が国際都市として繁栄したのは、オランダ商館が出島へ移転する一六四一年までのことであり、その期間は百年に満たない。しかし平戸のまちには今も「オランダ井戸」や「オランダ橋(幸橋)」など、当時の面影を偲ばせるものが残り、それと同じように砂糖文化も根付いた。江戸時代後期、平戸城下には三千軒以上の菓子店があったという。今でも平戸には数多くの菓子店があり、暖簾をくぐれば、ポルトガル由来のお菓子に出会うことができる。スイーツのまち平戸では、果たしてどんなおいしいお菓子が待っているだろうか。